福井県子どもの生活状況調査 結果概要

福井県子どもの生活状況調査について、国が令和3年度に実施した子供の生活状況調査との比較分析を実施する。
等価世帯収入※1やひとり親世帯※2、K6※3等の考え方は国分析方法に準拠。

アンケート回収数

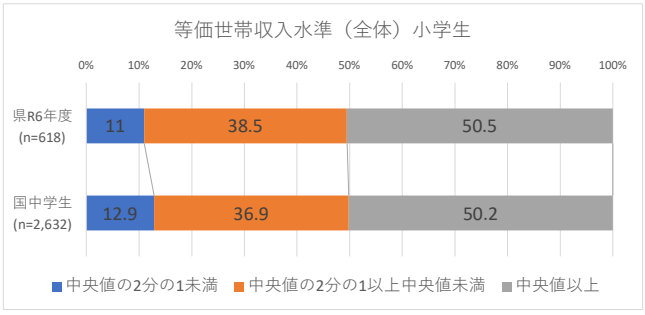
		配布数	有効回収数	回収率	調査時期
福井県	小学5年生	2,000	796	39.8%	R6.7
	中学2年生	2,000	761	38.1%	
	小学5年生および中学2年生の保護者	4,000	1,878	47.0%	
国	中学2年生およびその保護者	5,000	2,715	54.3%	R3.2~3

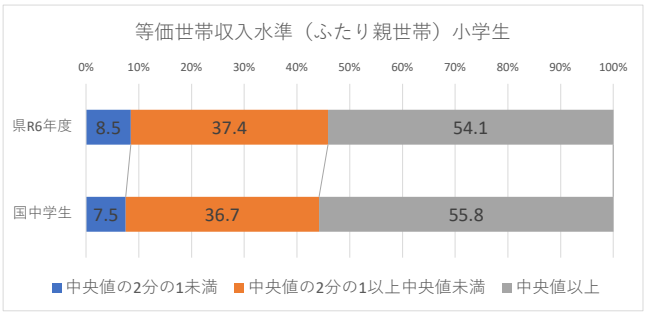
1. 保護者の生活状況

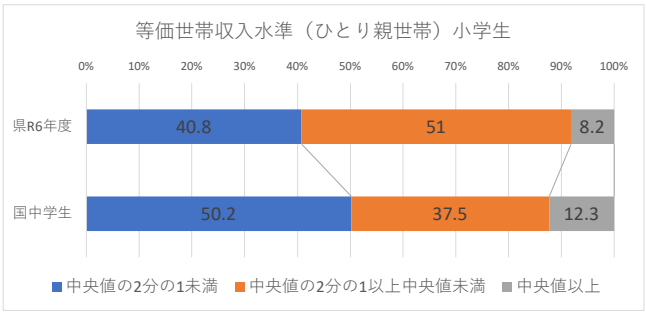
(1) 生活・行動実態、課題等

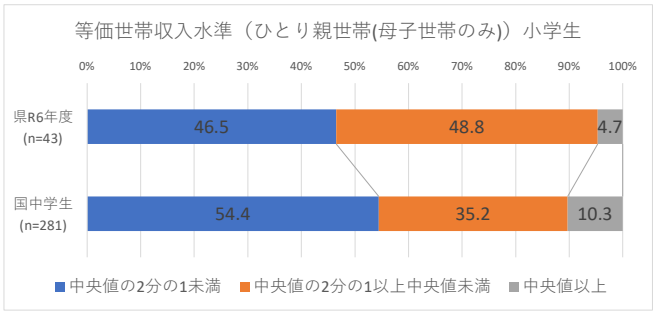
●世帯収入の状況

・ひとり親世帯について、等価世帯収入の水準が「中央値2分の1未満」の割合は約4割と国調査（約5割）より低いが、ふたり親世帯（約1割）と比較するとかなり高くなっている。

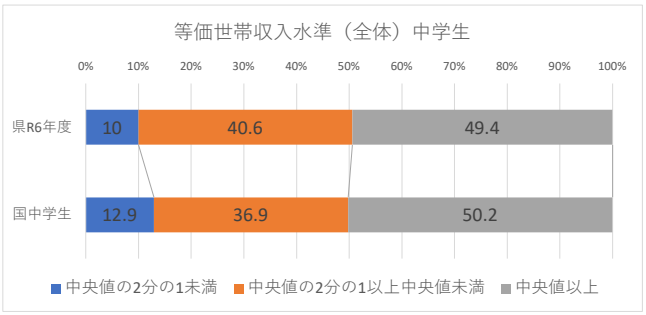


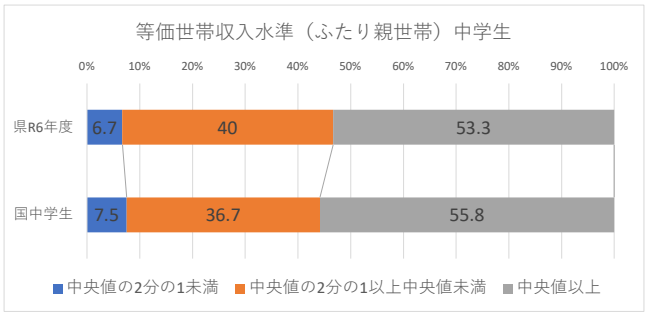


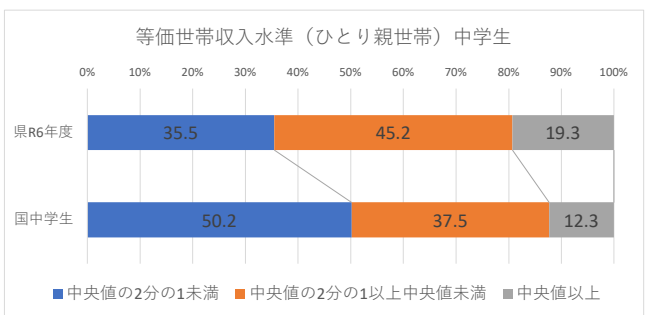


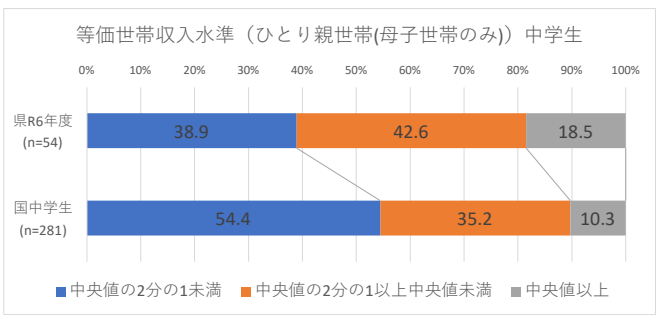


【中学2年生世帯】





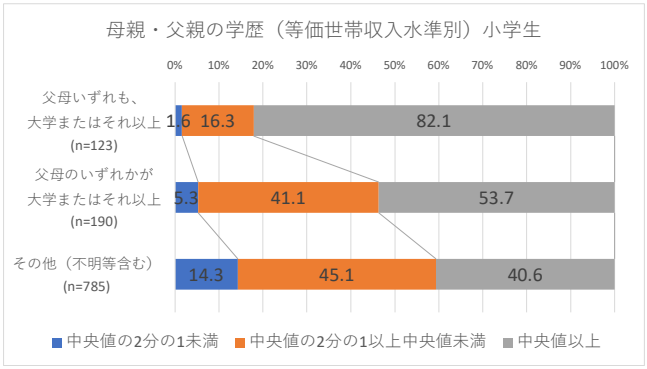


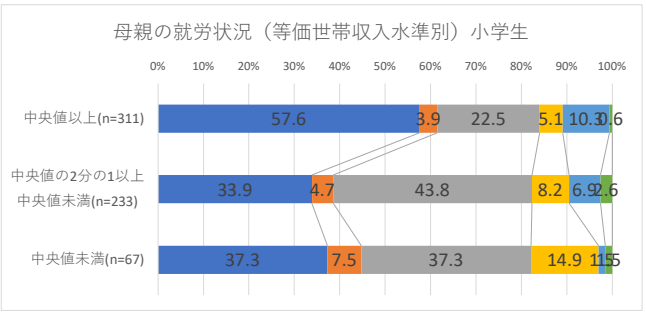


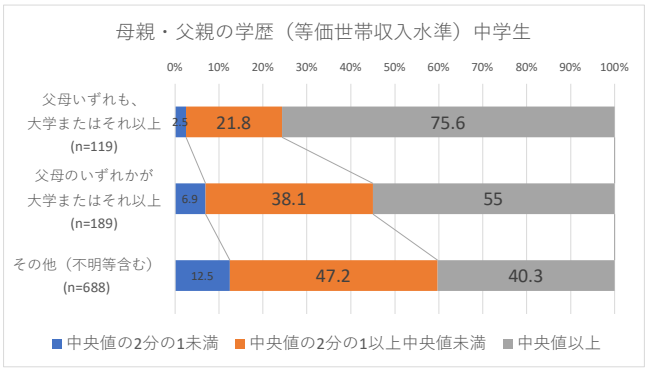
（参考）等価世帯収入水準
福井県小学生　等価世帯収入の中央値：306.19万円、中央値の2分の1：153.09万円
福井県中学生　等価世帯収入の中央値：317.54万円、中央値の2分の1：158.77万円
国中学生　　等価世帯収入の中央値：317.54万円、中央値の2分の1：158.77万円

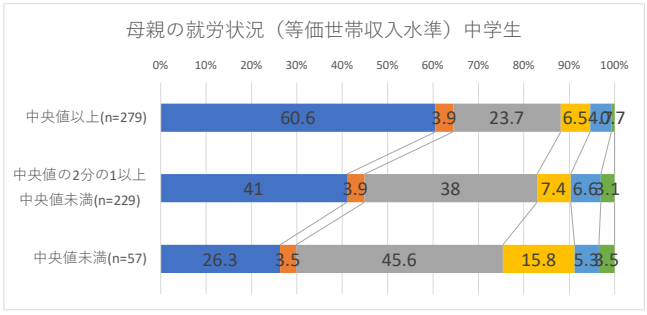
※1…世帯年間収入を同居家族の人数の平方根をとったもので除した値。
※2…親の婚姻状況の問で、「離婚」「死別」「未婚」と回答した世帯。
※3…うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題を表す指標。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

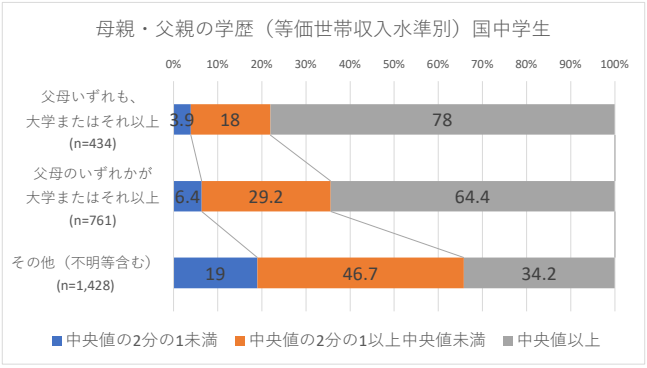
●母親・父親の学歴および就労状況
・等価世帯収入の水準が「中央値2分の1未満」の世帯は、父母の学歴が「大学またはそれ以上」の割合が低く、学歴の違いが収入の水準と関係している。
・中学生世帯および国調査においては、等価世帯収入の水準が下がると正社員の割合が低くなっている。

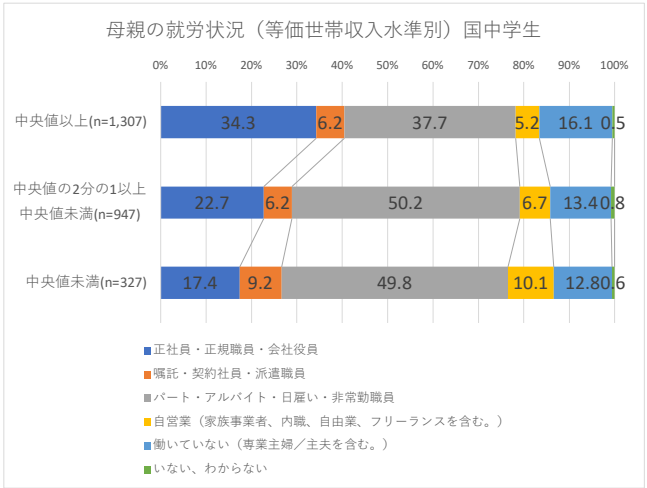




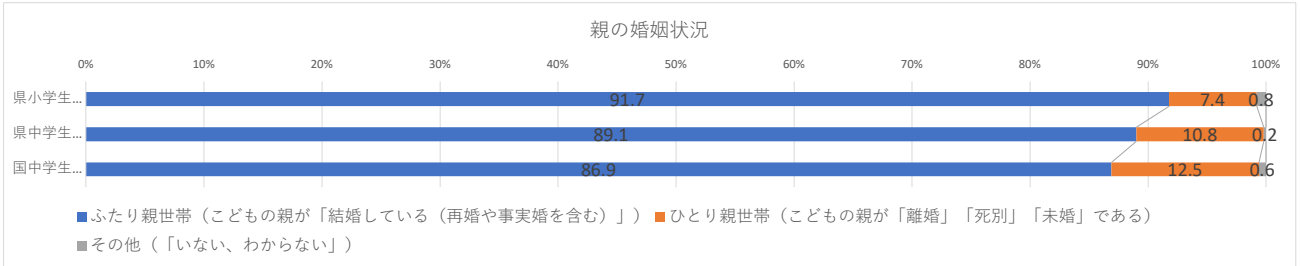






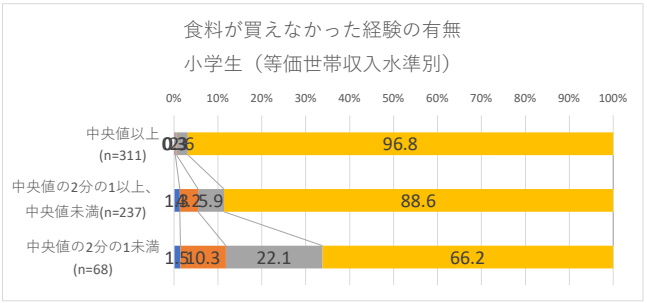


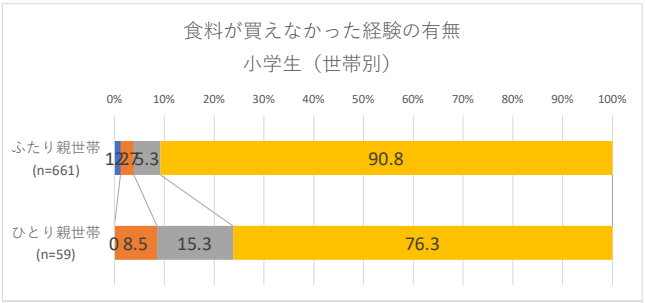
●子どもの親の婚姻状況
ひとり親世帯の割合は国調査より低い。

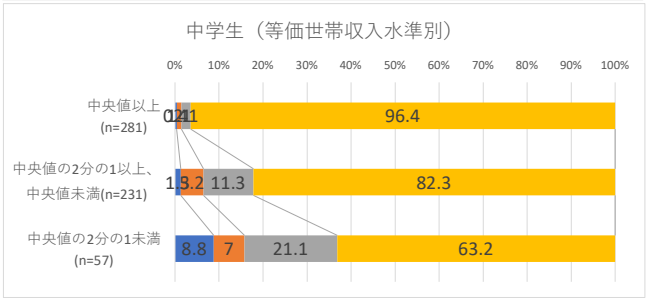


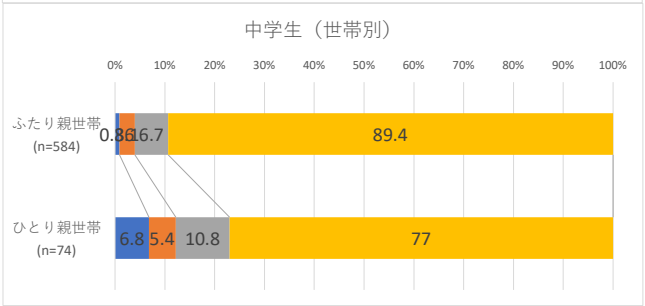
●保護者の生活状況

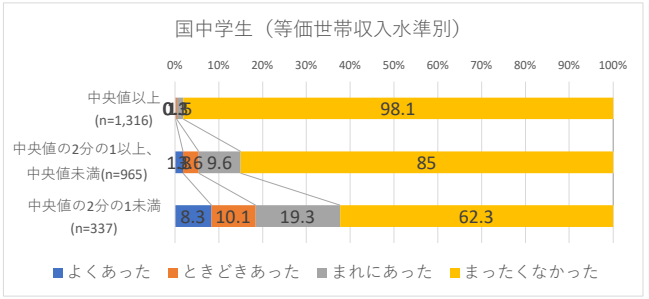
・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。

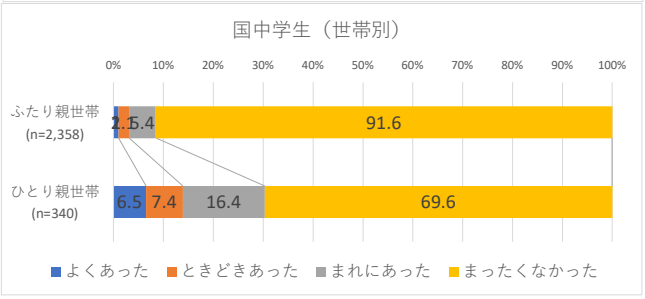


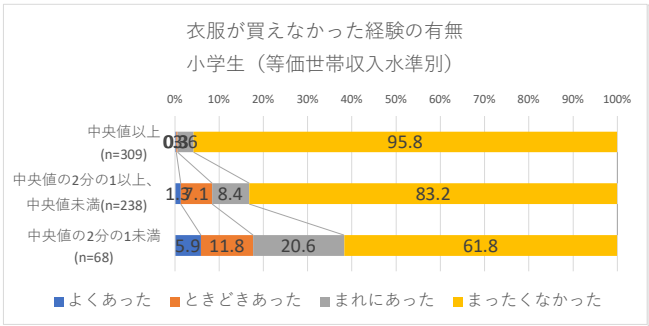


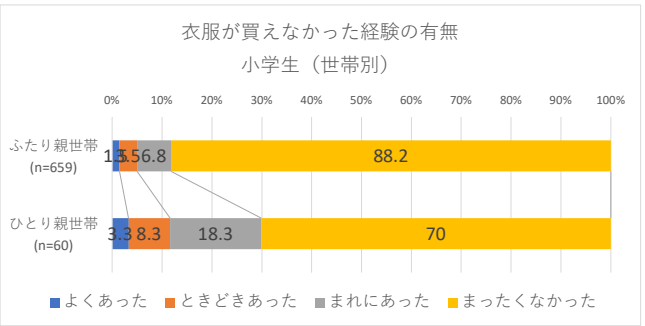


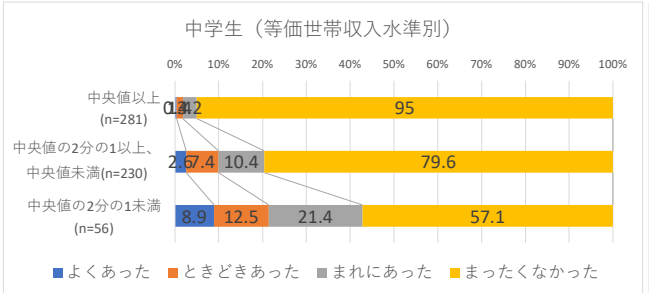


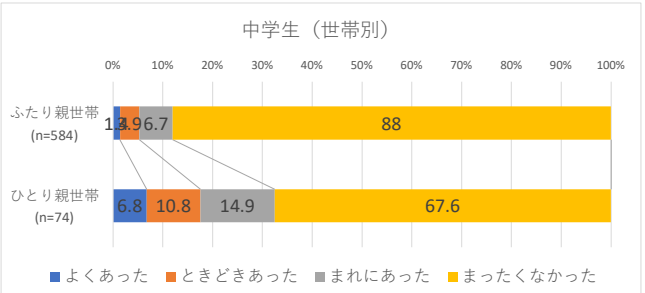


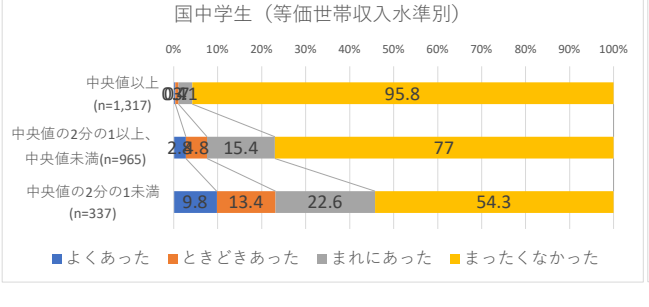


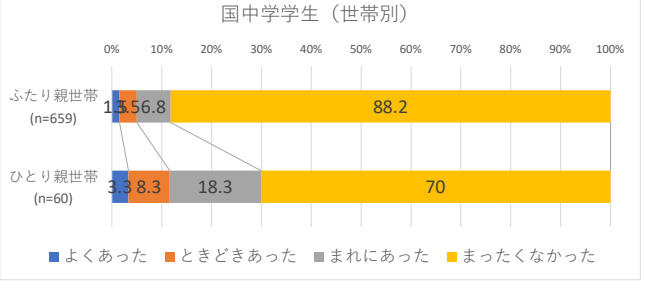


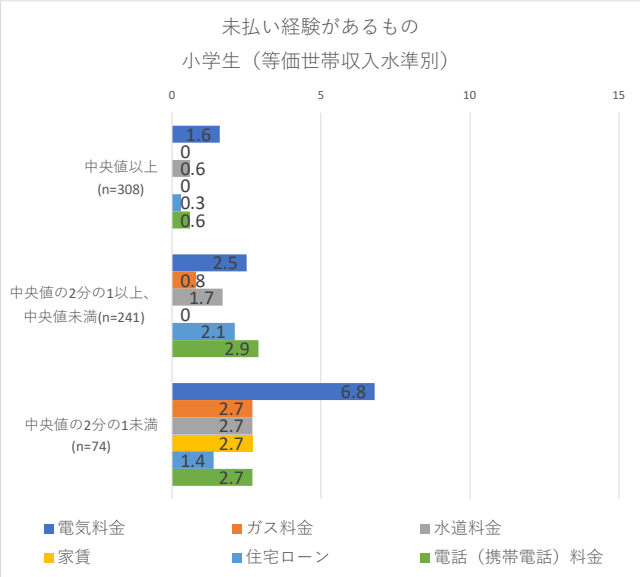


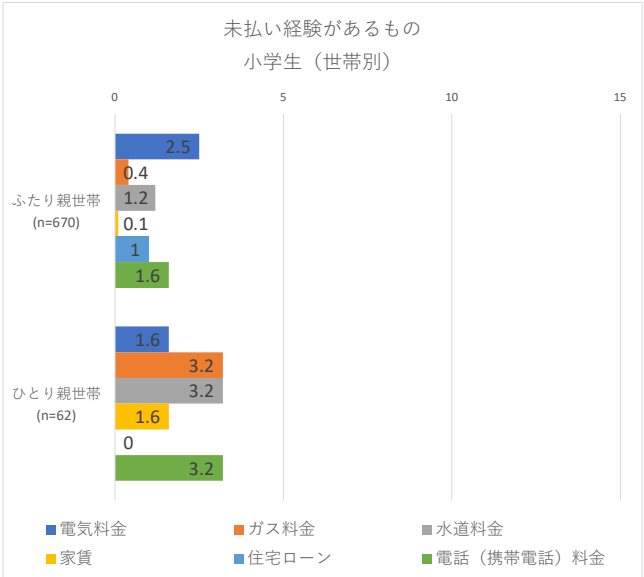


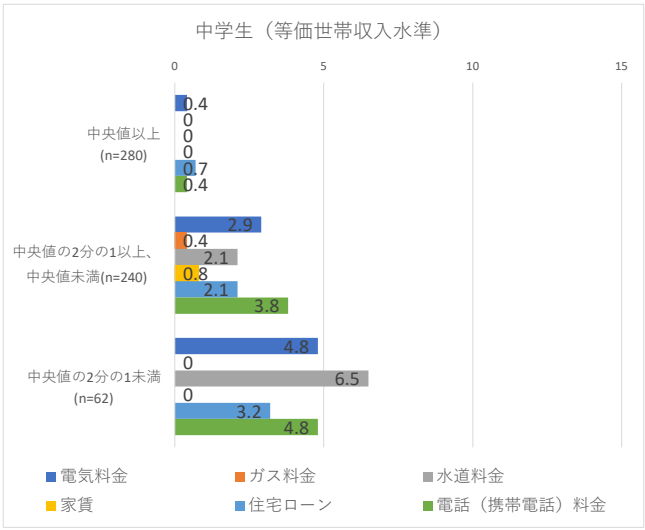


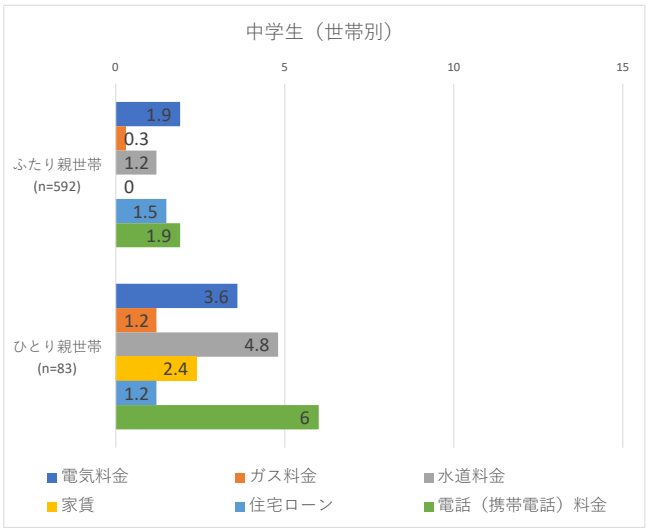


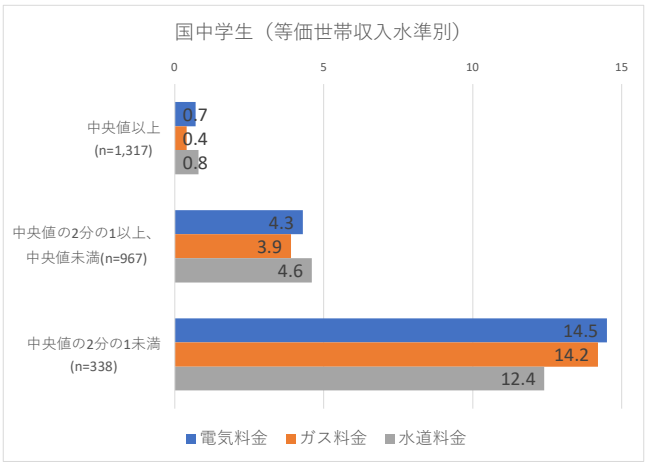


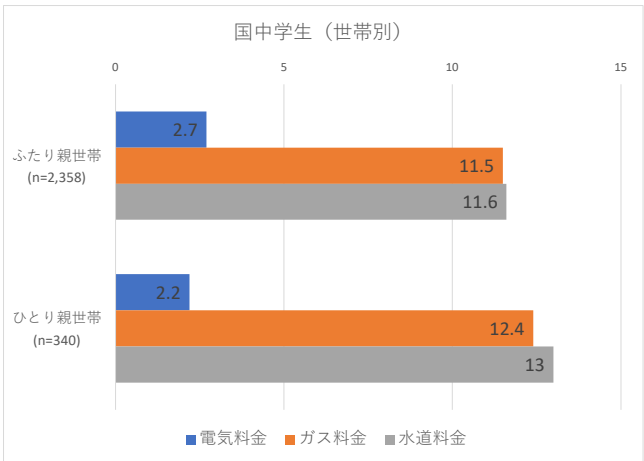

未払い経験があるもの
小学生（等価世帯収入水準別）
0
5
10
15
中央値以上
(n=308)
1.6
0
0.6
0
0.3
0.6
中央値の2分の1以上、
中央値未満(n=241)
2.5
0.8
1.7
0
2.1
2.9
中央値の2分の1未満
(n=74)
6.8
2.7
2.7
2.7
1.4
2.7
電気料金
ガス料金
水道料金
家賃
住宅ローン
電話（携帯電話）料金


未払い経験があるもの
小学生（世帯別）
0
5
10
15
ふたり親世帯
(n=670)
2.5
0.4
1.2
0.1
1
1.6
ひとり親世帯
(n=62)
1.6
3.2
3.2
1.6
0
3.2
電気料金
ガス料金
水道料金
家賃
住宅ローン
電話（携帯電話）料金


中学生（等価世帯収入水準）
0
5
10
15
中央値以上
(n=280)
0.4
0
0
0
0.7
0.4
中央値の2分の1以上、
中央値未満(n=240)
2.9
0.4
2.1
0.8
2.1
3.8
中央値の2分の1未満
(n=62)
4.8
0
6.5
0
3.2
4.8
電気料金
ガス料金
水道料金
家賃
住宅ローン
電話（携帯電話）料金


中学生（世帯別）
0
5
10
15
ふたり親世帯
(n=592)
1.9
0.3
1.2
0
1.5
1.9
ひとり親世帯
(n=83)
3.6
1.2
4.8
2.4
1.2
6
電気料金
ガス料金
水道料金
家賃
住宅ローン
電話（携帯電話）料金

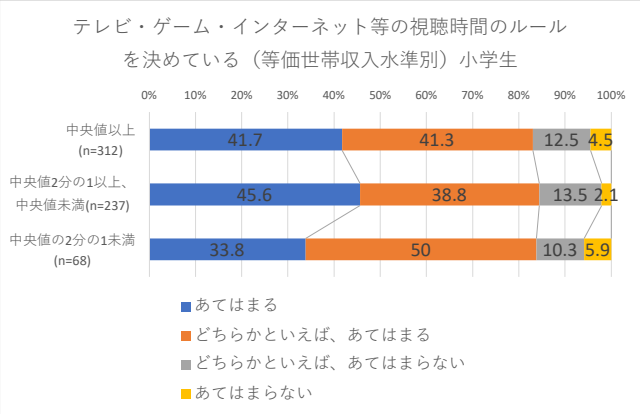

国中学生（等価世帯収入水準別）
0
5
10
15
中央値以上
(n=1,317)
0.7
0.4
0.8
中央値の2分の1以上、
中央値未満(n=967)
4.3
3.9
4.6
中央値の2分の1未満
(n=338)
14.5
14.2
12.4
電気料金
ガス料金
水道料金

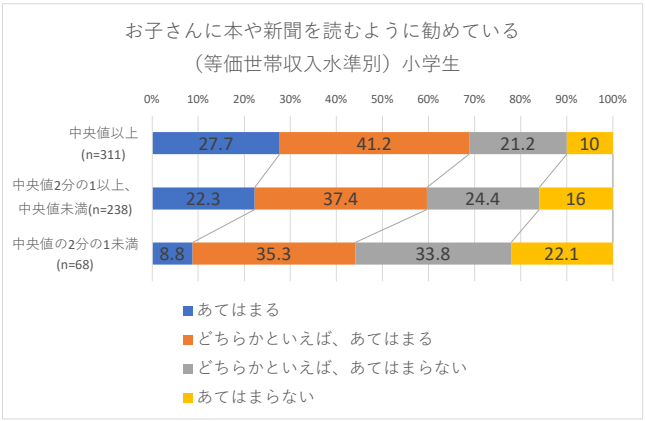

国中学生（世帯別）
0
5
10
15
ふたり親世帯
(n=2,358)
2.7
11.5
11.6
ひとり親世帯
(n=340)
2.2
12.4
13
電気料金
ガス料金
水道料金

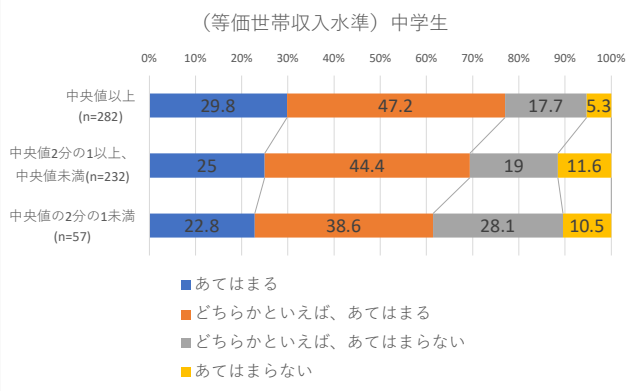
●子どもや学校との関わり方

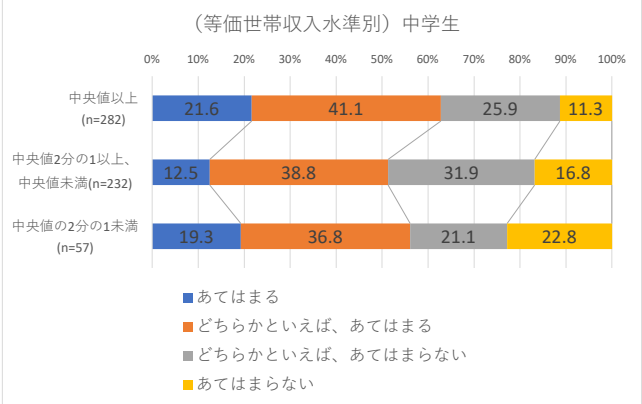
・「テレビ･ゲーム･インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」、「本や新聞を読むように勧めている」について、収入が低い世帯ほどあてはまらない割合が高い。

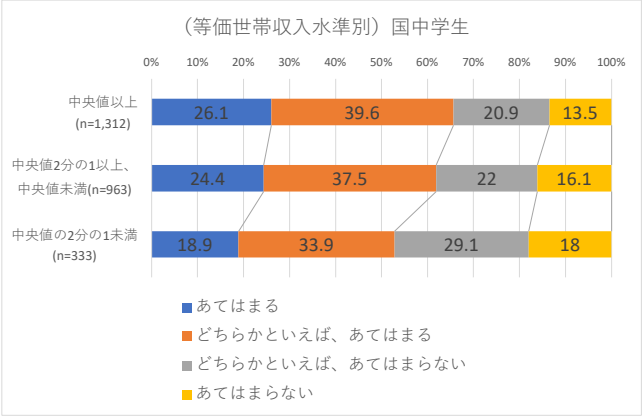
・「学校行事への参加」について、中学生世帯においては収入が低い世帯ほど低い。

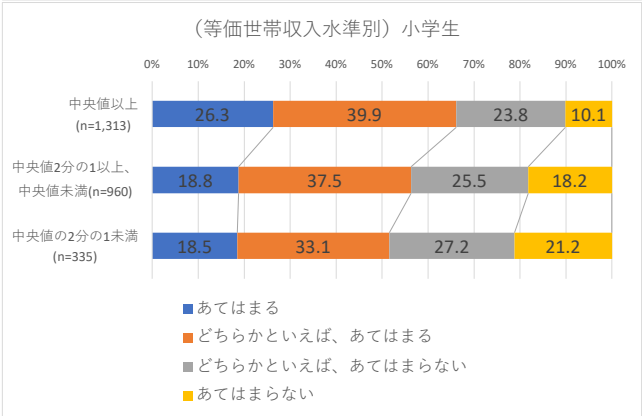


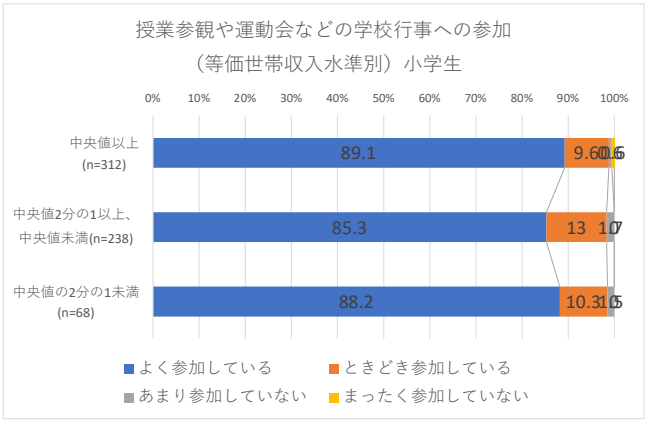


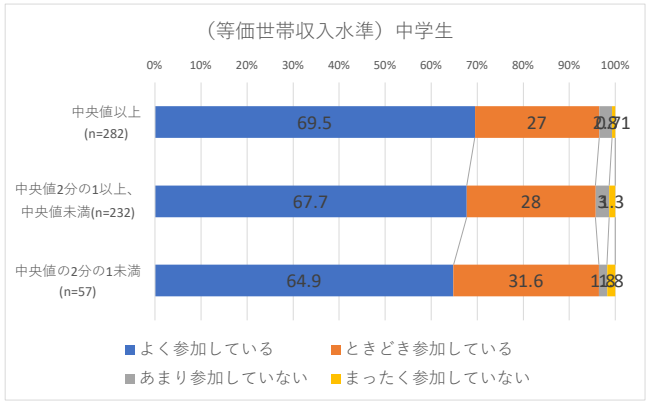


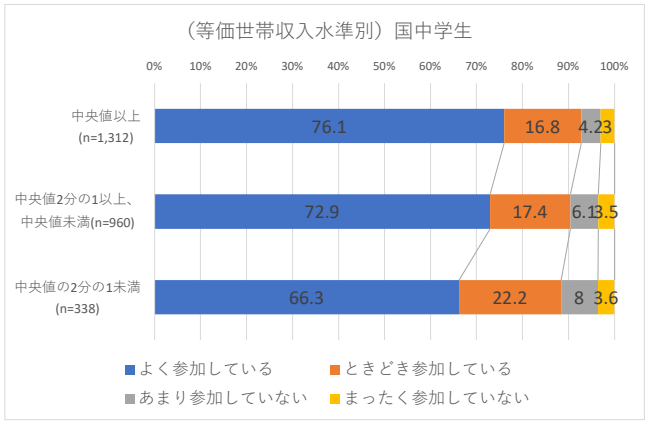







授業参観や運動会などの学校行事への参加
（等価世帯収入水準別）小学生
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
中央値以上
(n=312)
89.1
9.6
0.6
中央値2分の1以上、
中央値未満(n=238)
85.3
13
1.7
中央値の2分の1未満
(n=68)
88.2
10.3
1.5
よく参加している
ときどき参加している
あまり参加していない
まったく参加していない

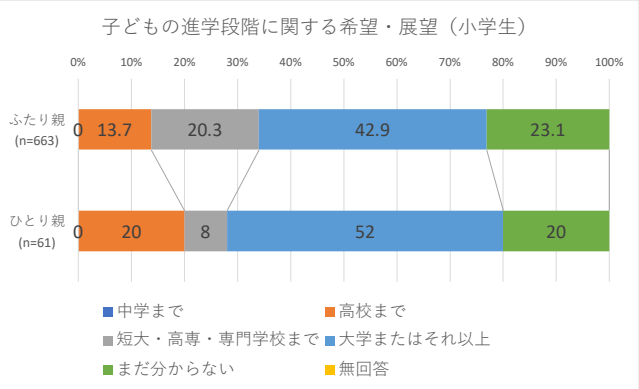

（等価世帯収入水準）中学生
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
中央値以上
(n=282)
69.5
27
2.8
0.71
中央値2分の1以上、
中央値未満(n=232)
67.7
28
3.3
中央値の2分の1未満
(n=57)
64.9
31.6
1.8
1.8
よく参加している
ときどき参加している
あまり参加していない
まったく参加していない

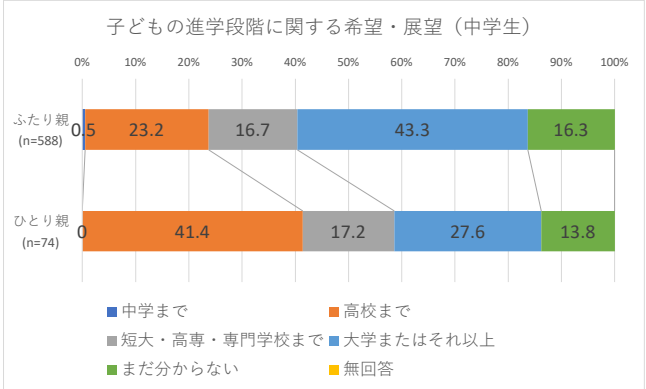

（等価世帯収入水準別）国中学生
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
中央値以上
(n=1,312)
76.1
16.8
4.2
3
中央値2分の1以上、
中央値未満(n=960)
72.9
17.4
6.1
3.5
中央値の2分の1未満
(n=338)
66.3
22.2
8
3.6
よく参加している
ときどき参加している
あまり参加していない
まったく参加していない

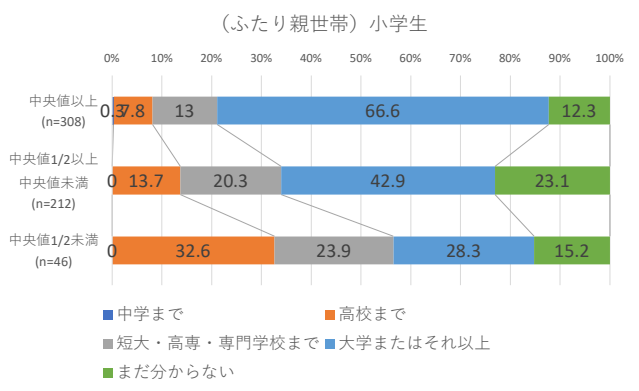
●子どもの進学段階に関する希望・展望

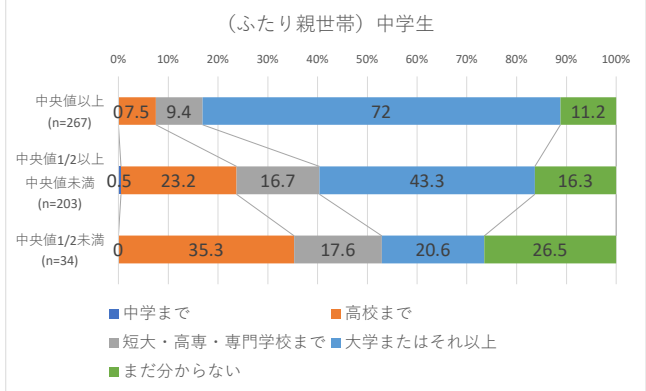
・収入の水準が低い世帯では、子どもが将来どの段階まで進学するのかの希望・展望に関して「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

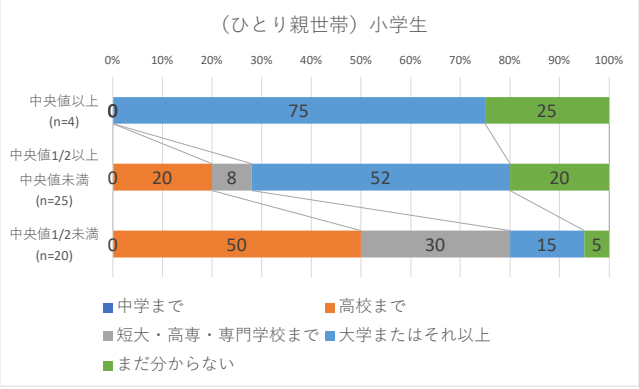
・子どもの進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の水準が低い世帯で「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。

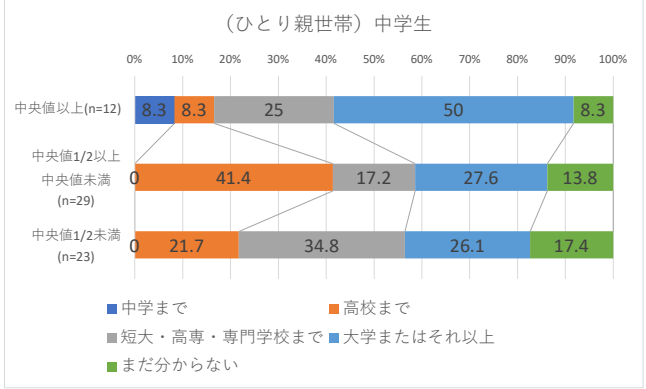


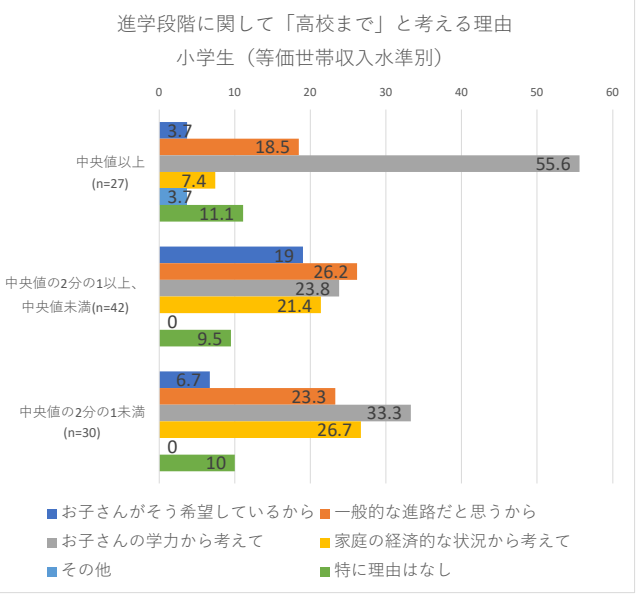


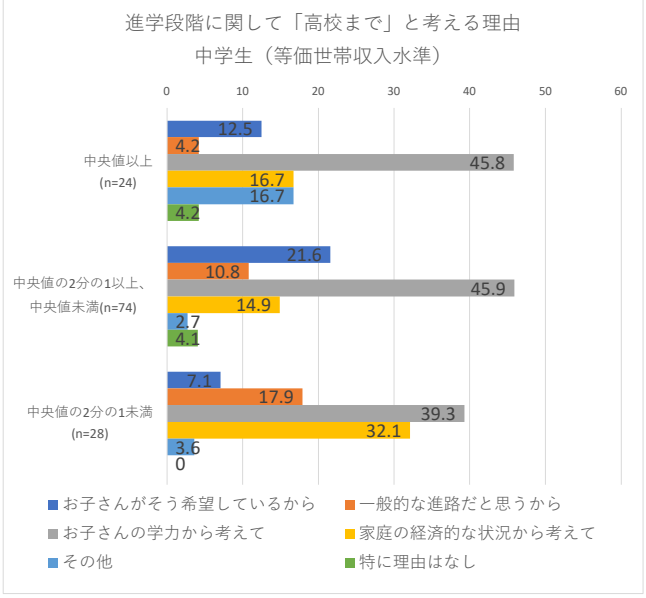






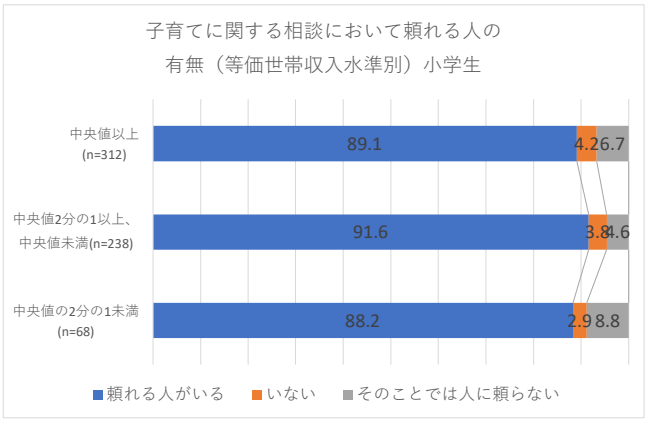


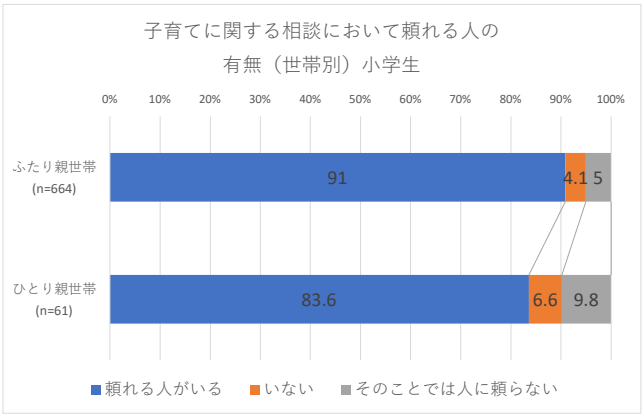


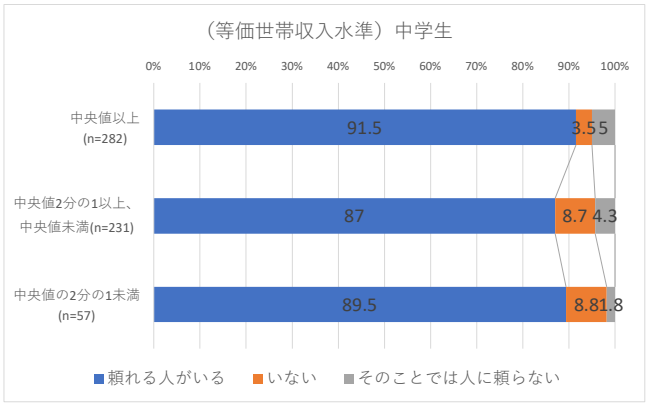


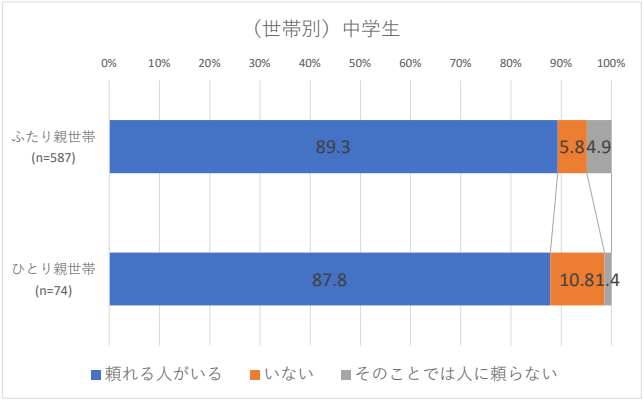
●頼れる人の有無

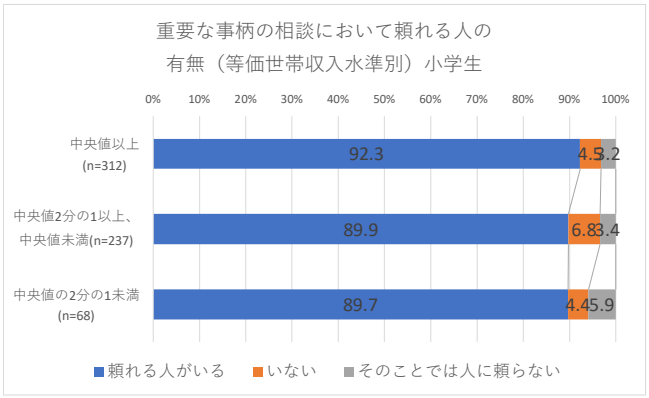
・ひとり親世帯では、頼れる人がいないと回答した割合が高い。また、収入の水準が低い世帯では心理的な状況として「うつ・不安障害相当」に該当すると考えられる（K6スコア※4が13点以上）割合が高い。

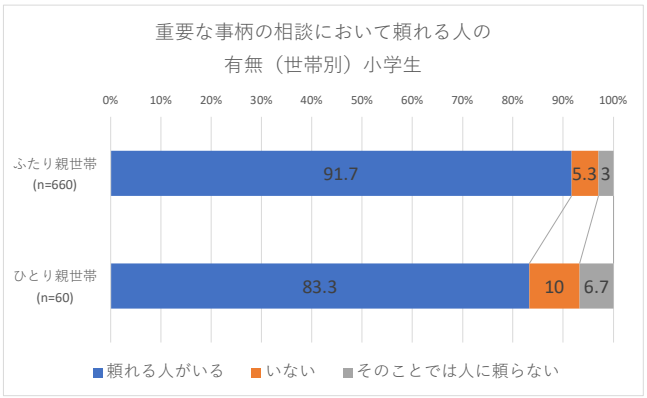


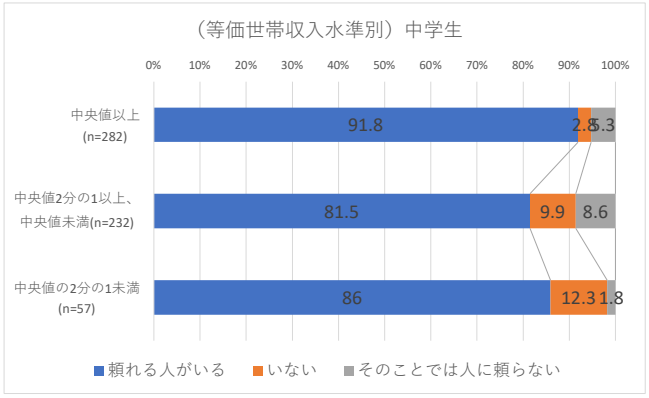


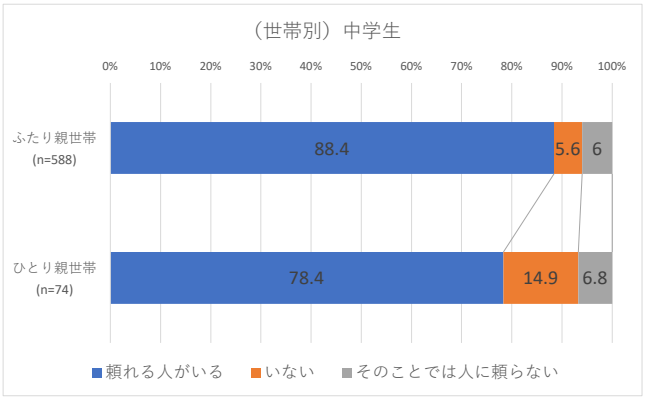


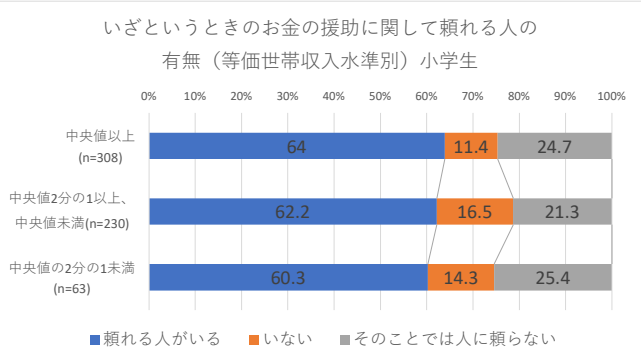


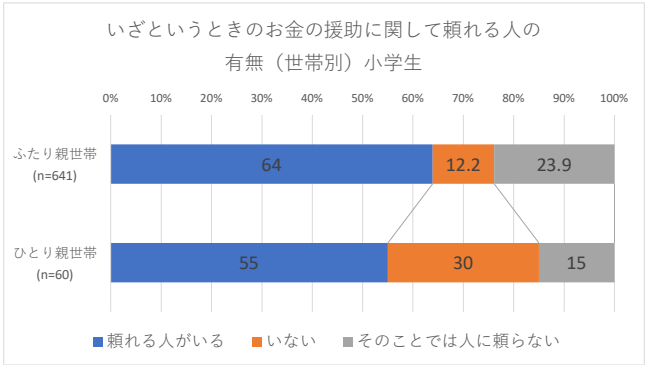


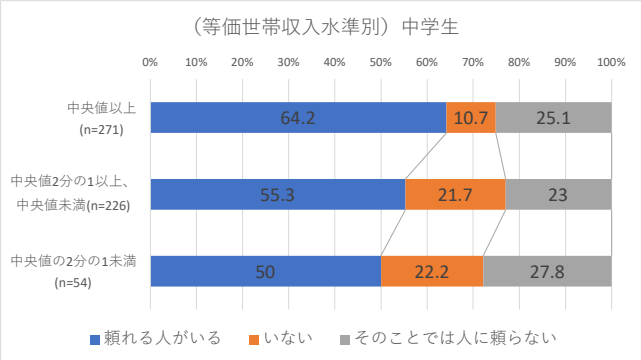


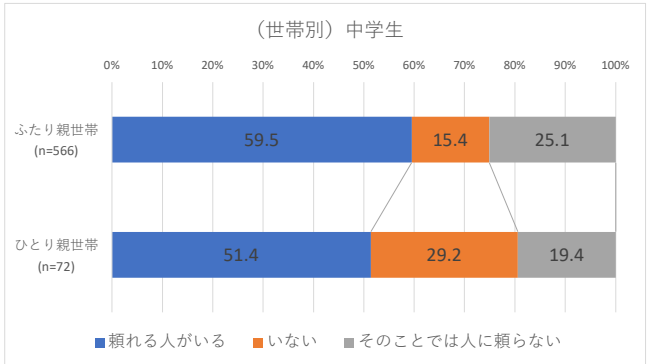


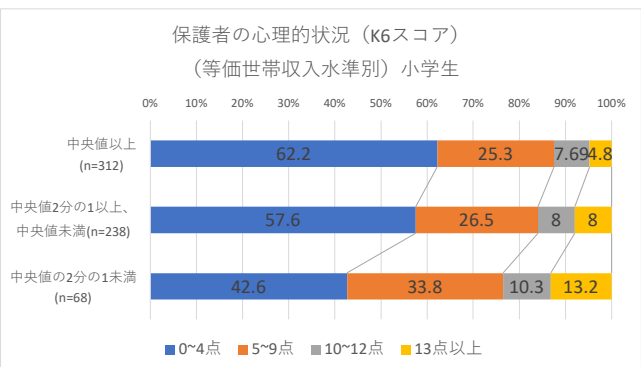


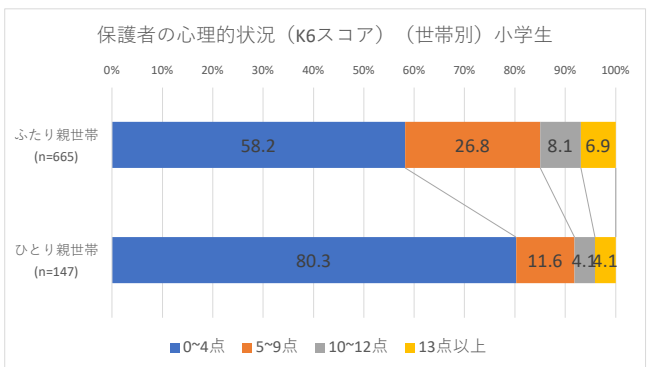


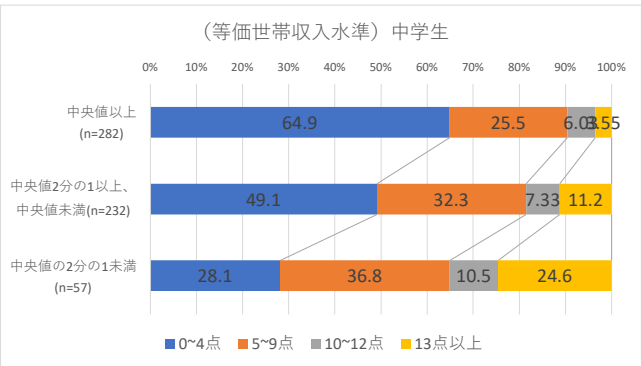


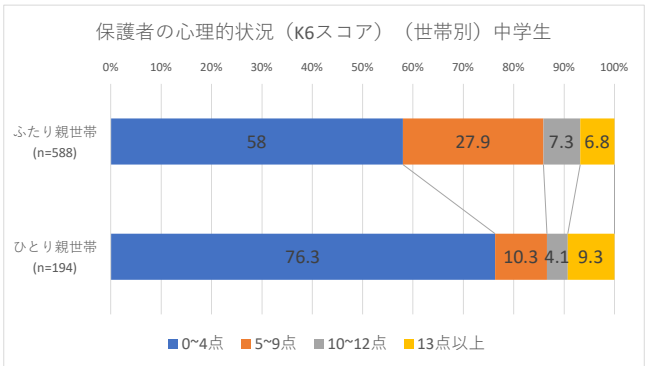


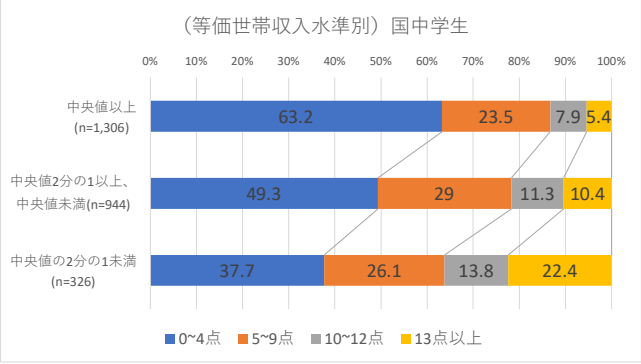


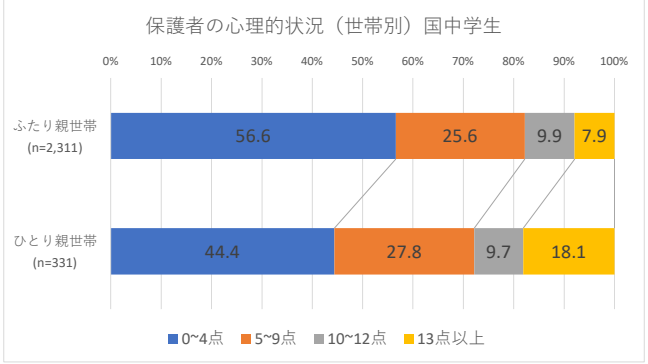












※4…保護者票問29（国：保護者票問22）の6つの調査項目に関して、ひとつの質問ごとに、0点（5.まったくない）から4点（1.いつも）を不振り、結果を足し合わせた数値（0~24点）。K6スコア13点以上で、「うつ・不安障害相当」とされている。

●子どもと親の生活の満足度の関連性

・生活の満足度について、小学生世帯・中学生世帯ともに親と子の満足度に関連性が見られる。中学生世帯の方は、一部親と子の満足度の矛盾が小学生世帯よりも多く見られる。

・満足度合いを判断するにあたり何を重視したかについては、子どもと親共に「家族関係」と「健康状態」と答えた人が多かった。親に関しては「家計状況」も同様に多く、子どもに関しては「友人関係」を判断材料とした人が多かった。

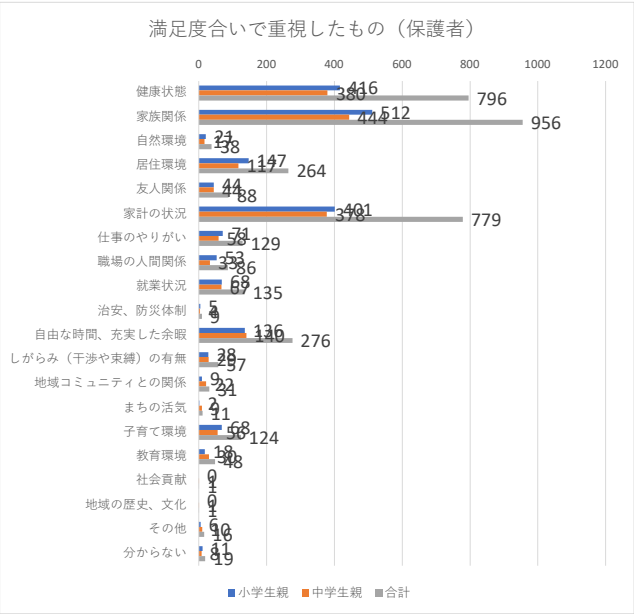
縦軸：保護者の回答
横軸：その子どもの回答

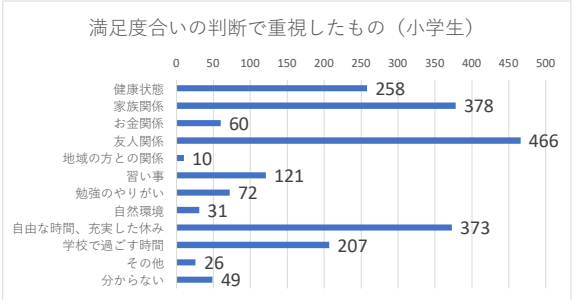
【小学生とその親の満足度】

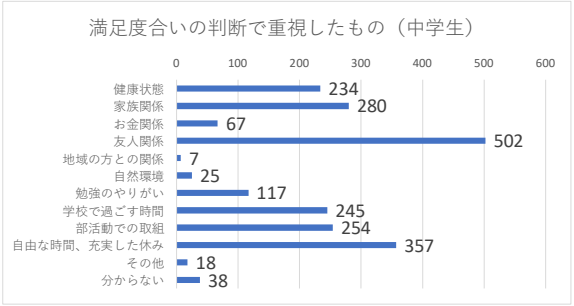
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
50万未満				1	1	1		3	1	2	3	12
50万円以上100万円未満						2	1	2	1			6
2			1	1	1	6	2	2	2			15
3		1		1		6	3	2	12	2	6	33
4				3	3		4	3	12	4	7	36
5		1	1	2	3	15	7	16	30	17	34	126
6		1			2	9	9	9	22	7	16	75
7		1	1	5	5	14	8	24	40	33	29	160
8		1			2	8	8	26	40	28	45	158
9					1	4	1	1	8	5	13	33
10			1			3	1	9	7	7	33	66
無回答						1					1	2
合計		5	4	13	18	69	44	97	175	105	187	

【中学生とその親の満足度】

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
0			1			2	1		1		3	8
1				1		1		1	2	2	1	8
2			1			1	2	1	2	4	5	16
3		1	1	2	3	4	2	4	5	7	7	36
4	1	1	2	2	2	5	4	6	14	5	10	52
5		1	3	5	2	19	13	31	30	9	16	129
6	1		1	4	3	14	8	14	20	6	10	81
7			1		4	9	9	27	33	13	32	128
8		1	1	2	2	18	10	21	34	21	29	139
9					2	1	1	5	6	4	9	28
10		1		1		1	2	5	8	4	8	30
無回答							1		1		1	3
合計	2	5	11	17	18	75	53	115	156	75	131	







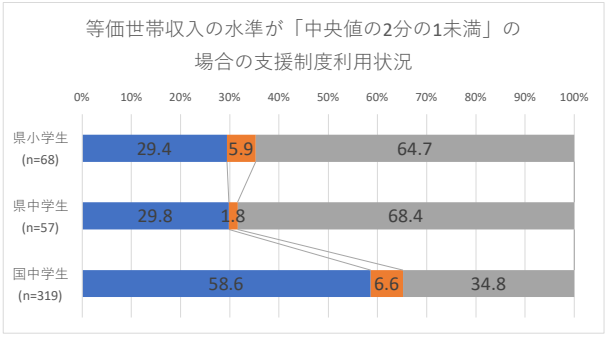
(2) 支援の利用状況等

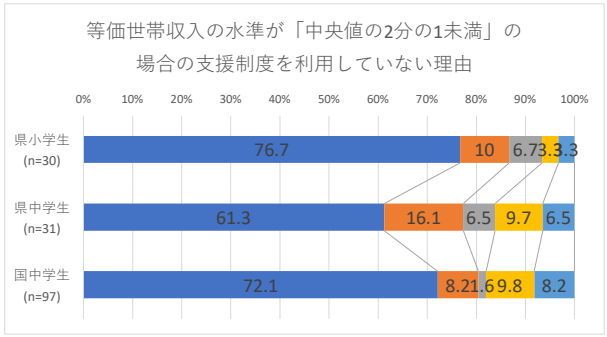
●支援制度の利用状況等

・支援の利用状況について、国調査では5割を超えていた「就学援助」についても、県では3割未満の利用状況に留まっている。その他の支援についても国割合よりも低い利用割合となっているものが多い。

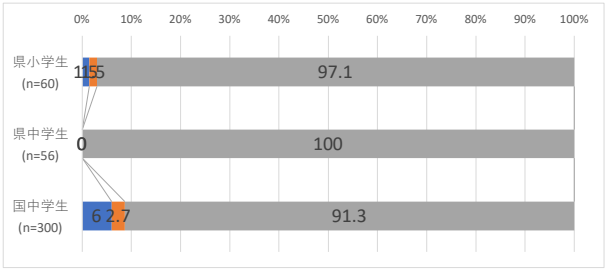
・支援制度を利用していない理由について、「制度の対象外である」「特に利用したいと思わなかった」が全ての制度において7割を超えている。「就学援助」「母子家庭等就業・自立支援センター」は、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」「利用したいが、手続きが分からなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答が1割を超えている。

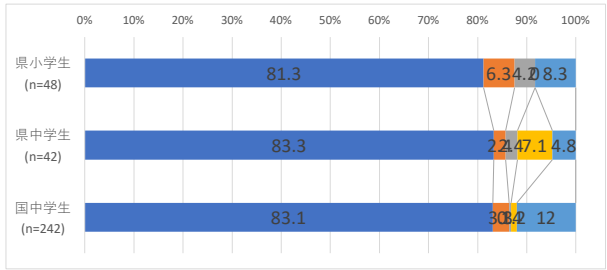
就学援助



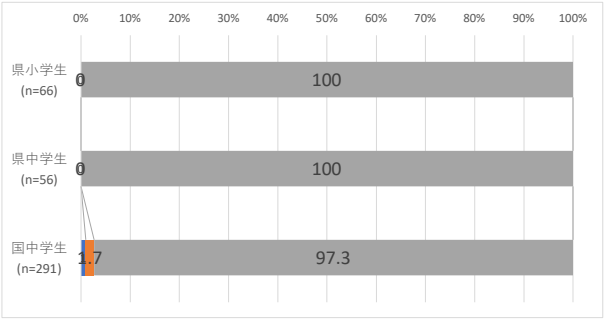


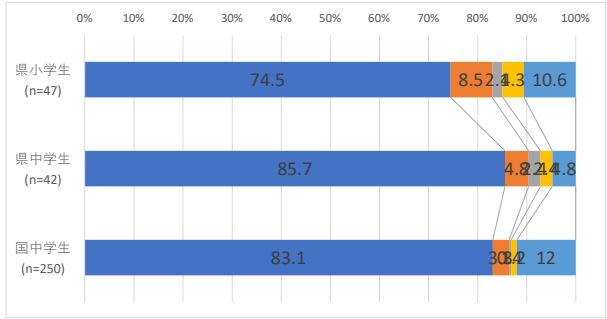
生活保護



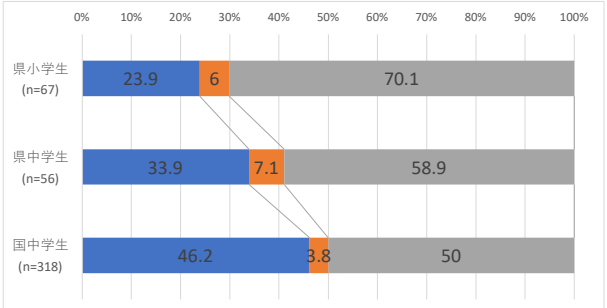


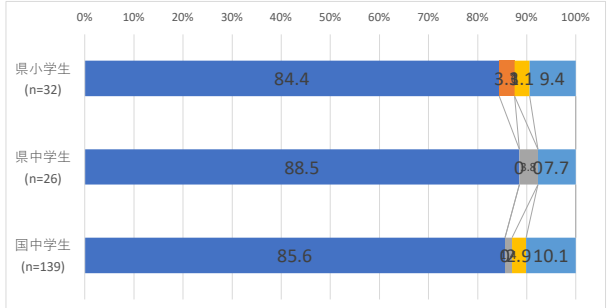
生活困窮者の自立支援相談窓口



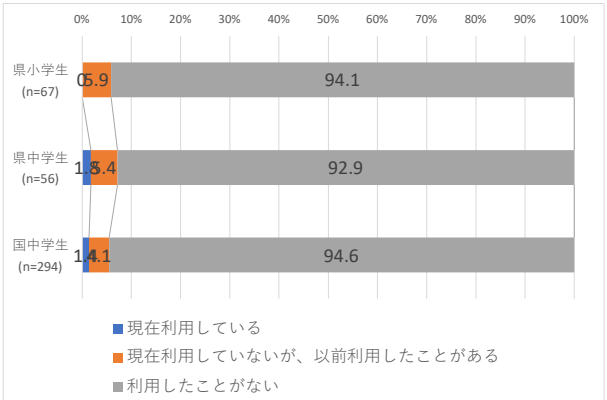


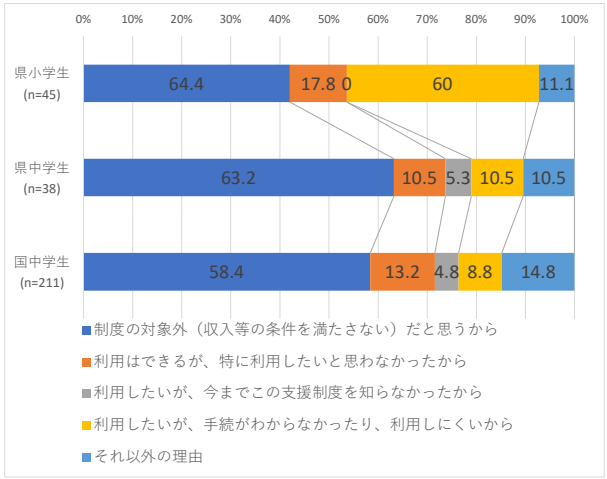
児童扶養手当



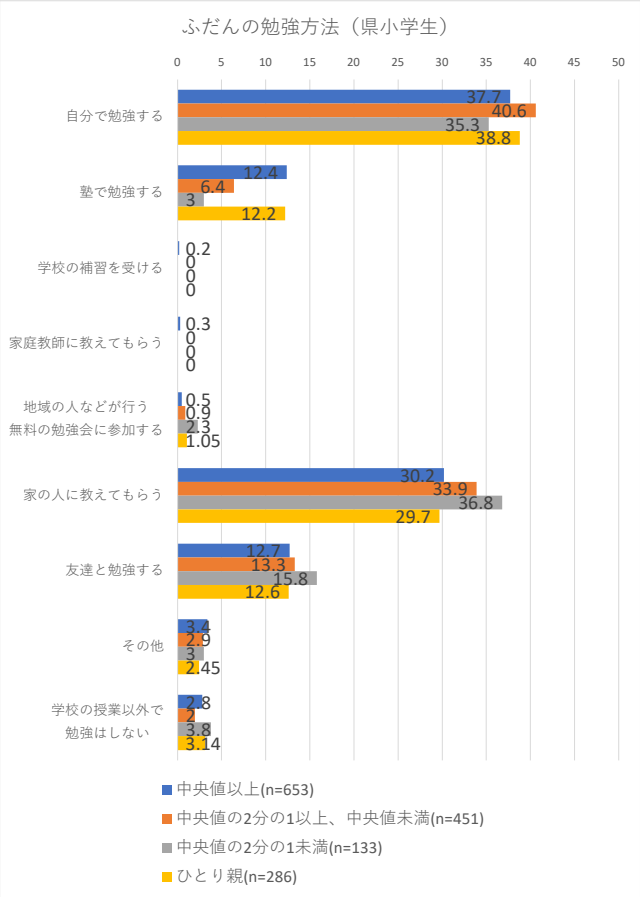


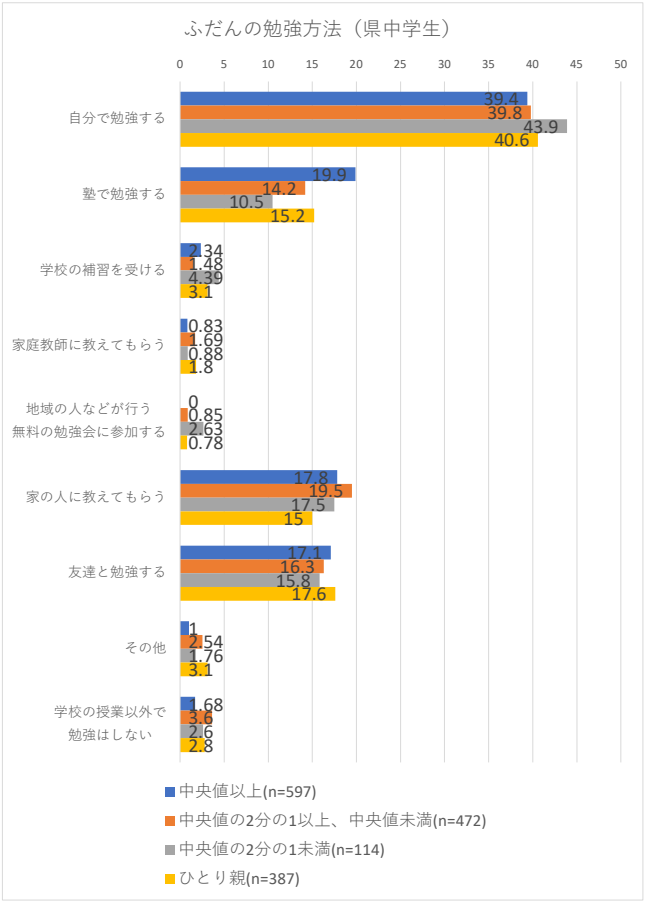
母子家庭等就業・自立支援センター

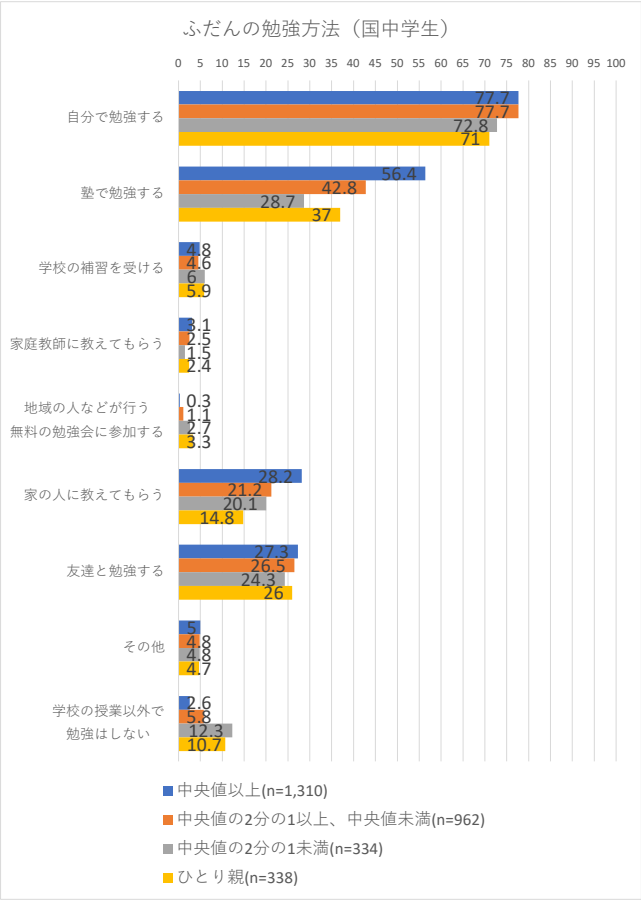




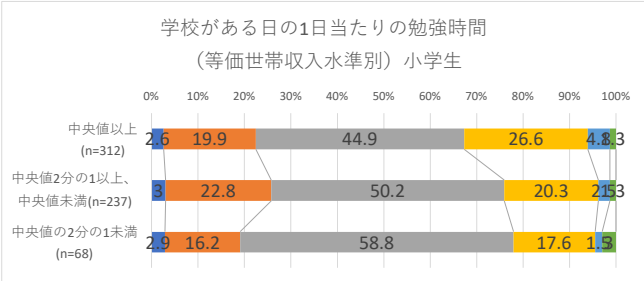
2･子どもの生活状況
（1）生活･行動実態･課題等
●子どもの学習状況
･収入の水準が低い世帯やひとり親世帯の子どもは「自分で勉強する」「家の人に教えてもらう」割合が高い。

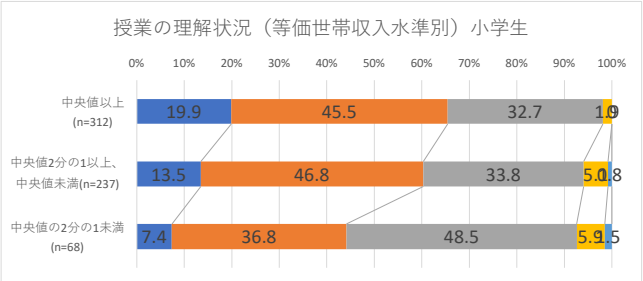


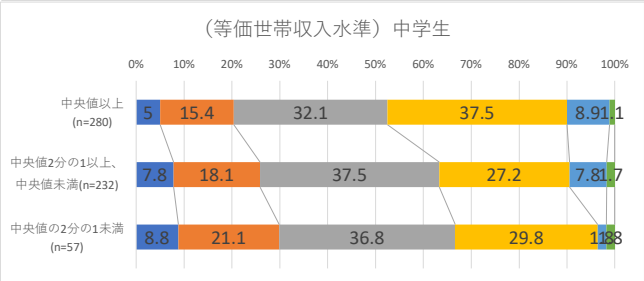


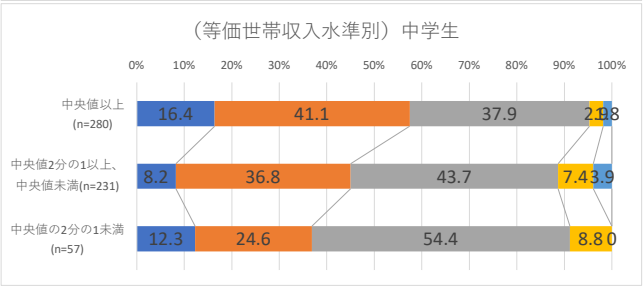


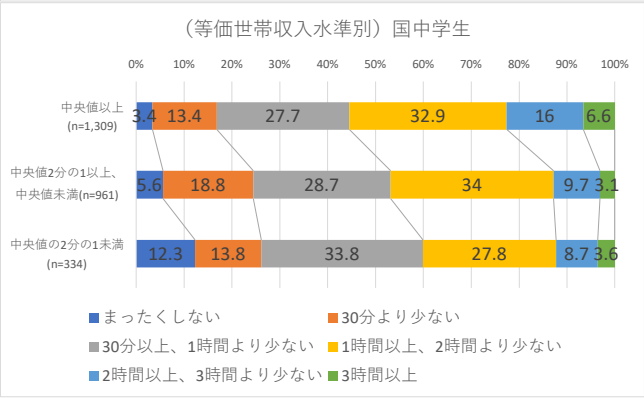
・学校がある日の１日当たりの勉強時間を「まったくしない」と回答した割合、学校での授業について「わからないことが多い」と回答した割合、クラスの中での成績について「下のほう」と回答した割合は、それぞれ収入が低い水準で高い。

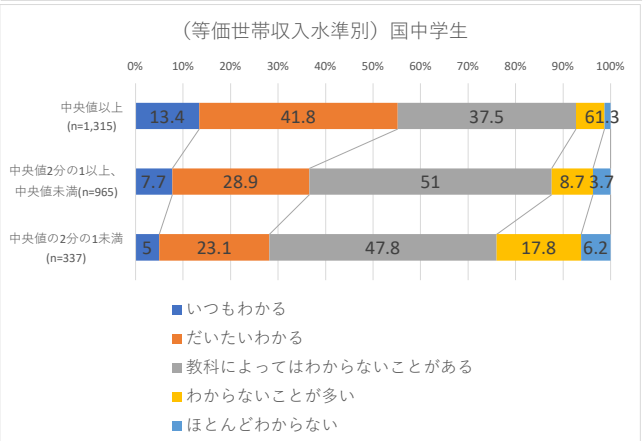


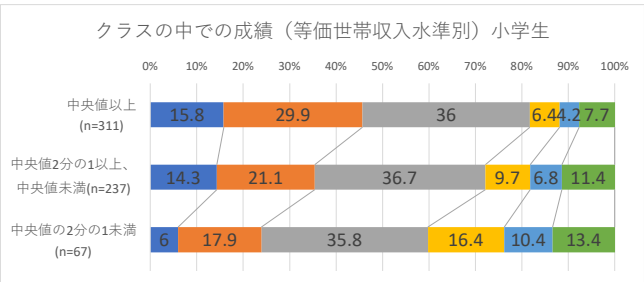


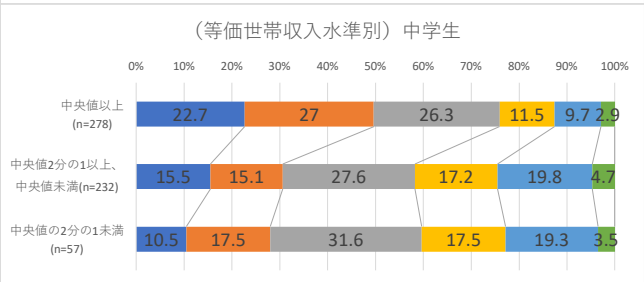


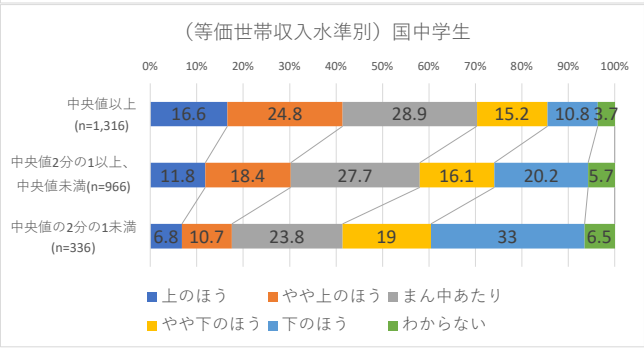






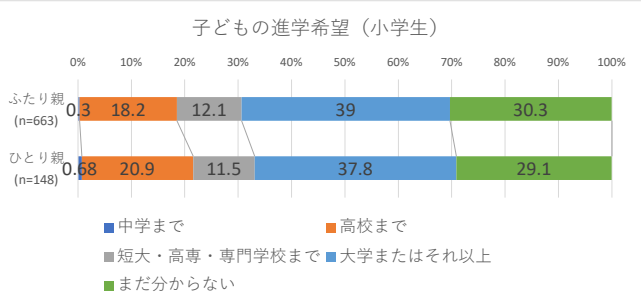


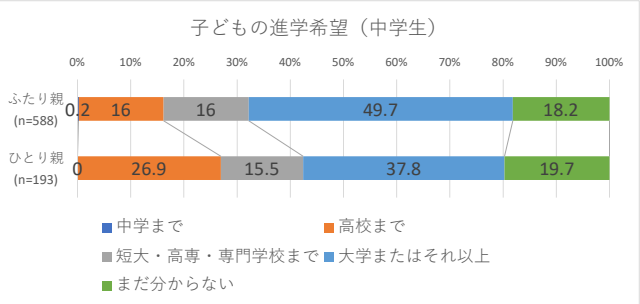


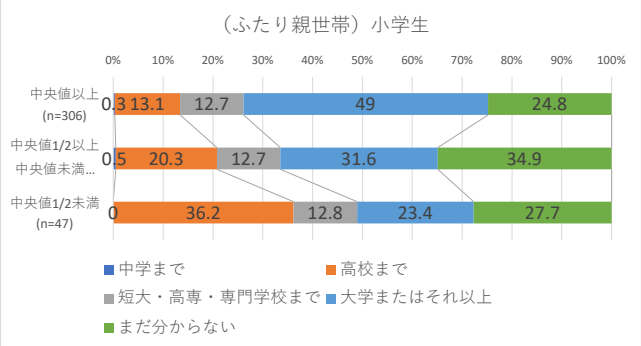


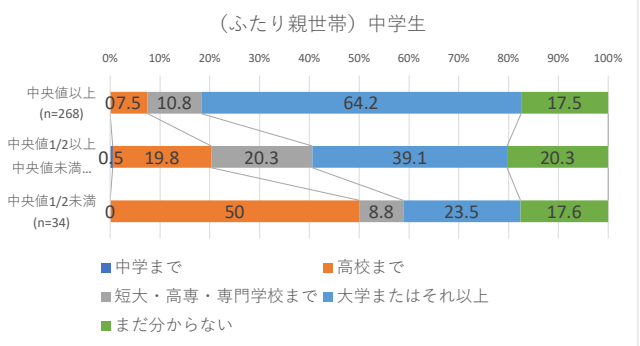
●子どもの進学希望

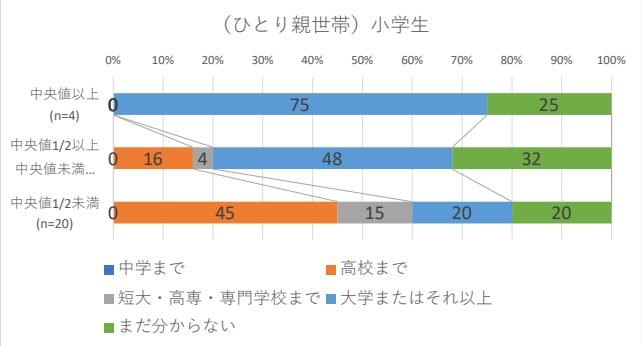
・ひとり親世帯および収入の水準が低い世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。

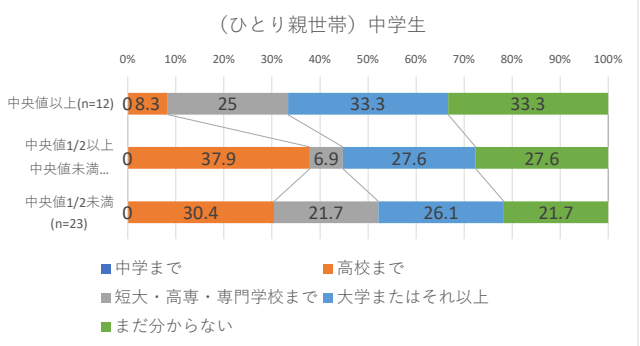






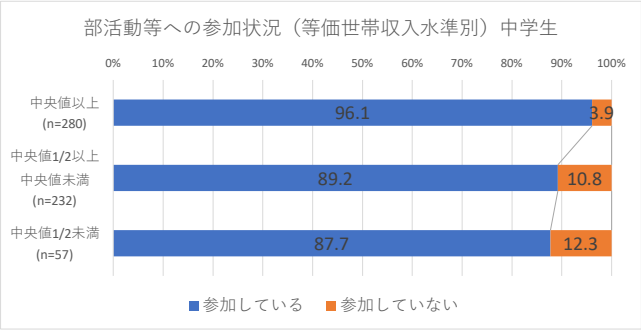


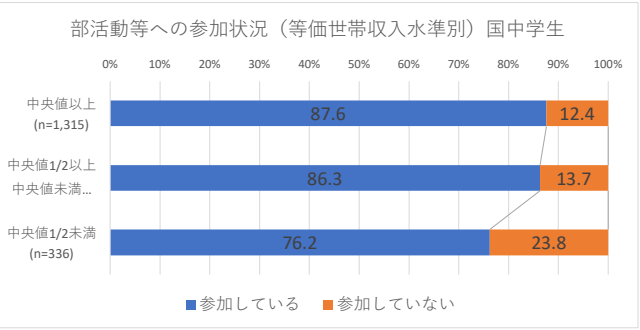


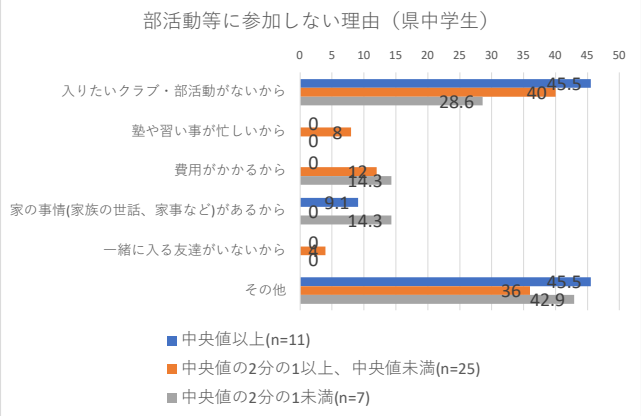


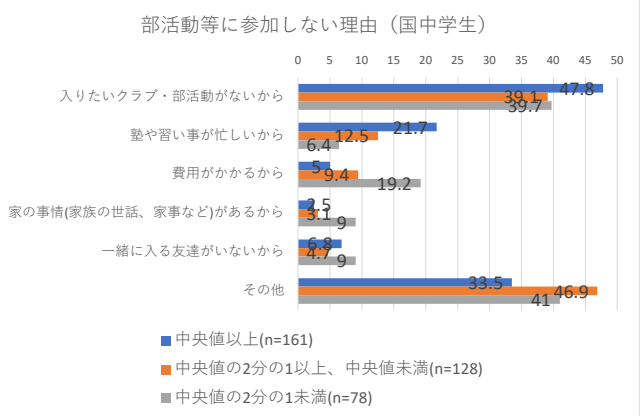
●部活動参加について

・収入の水準が低い世帯では部活動に参加していない割合が高い。その理由として、収入の水準が低い世帯では「入りたいクラブ・部活動がない」の次に「費用がかかるから」と回答した割合が高い。



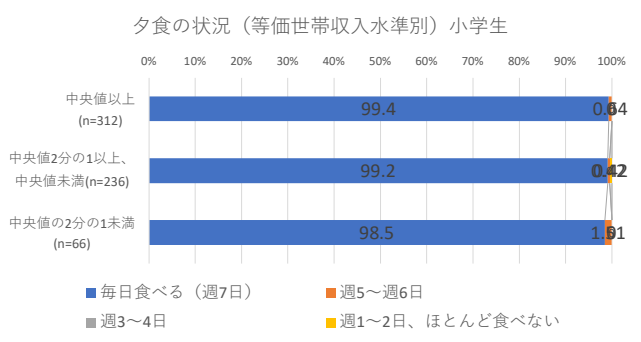


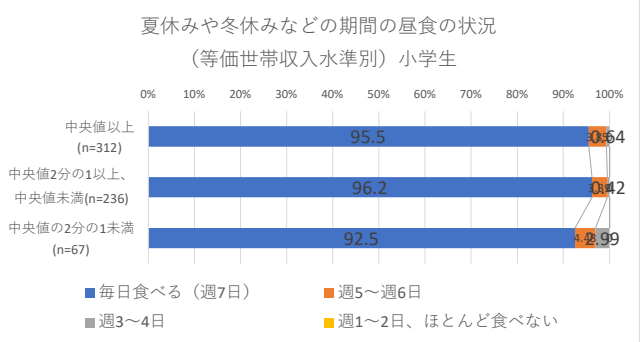


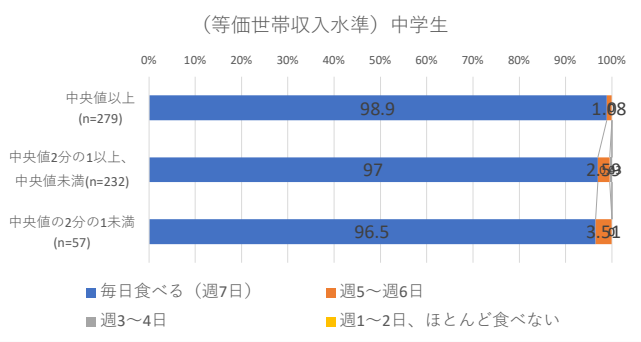


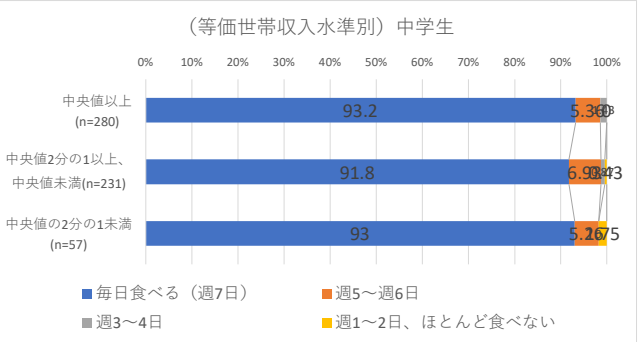
●子どもの生活状況

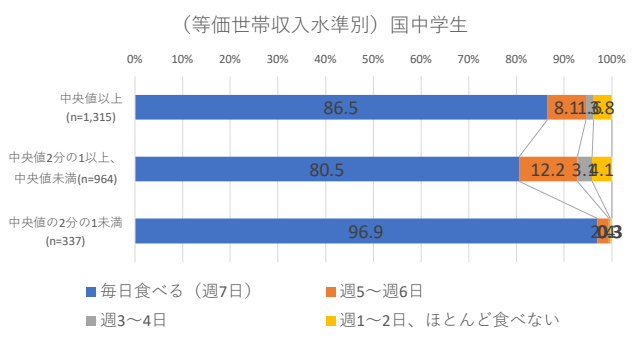
・夕食・長期休暇中の昼食とも「毎日食べる」と回答した割合が9割を超えるが、収入の水準が低い世帯では「週3～4日」「週1～2日、ほとんど食べない」の回答が少し見受けられた。

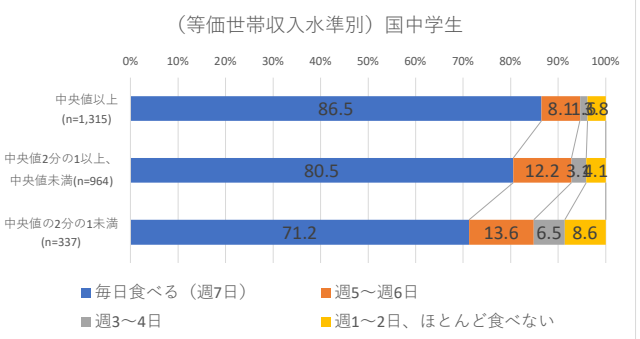






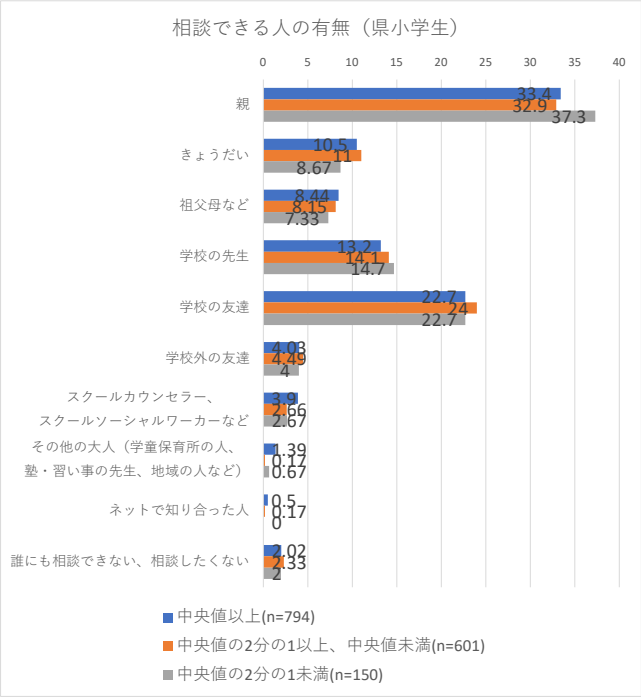


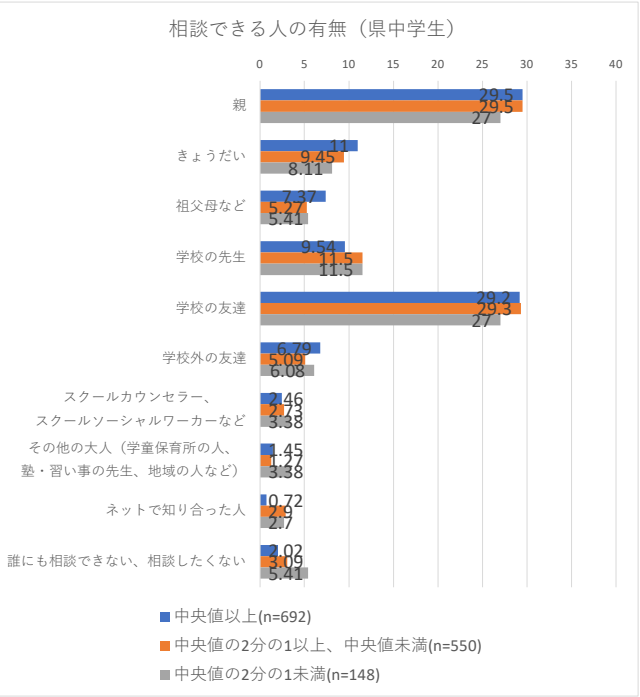




●頼れる人の有無

・中学生世帯の収入の水準が低い世帯では「誰にも相談できない、相談したくない」と回答した割合が高い。





●子どもと親の逆境体験の関連性について

以下9つの項目から「逆境体験」の経験有無を確認。(小学生票:問15、中学生票:問17、保護者票:問30)

a　一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
b　一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。
　または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
c　家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
d　必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
e　両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
f　一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、
　または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
g　一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
h　一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺をしようとした人がいる
i　ひとつもあてはまらない

・小学生世帯、中学生世帯どちらとも、親が過去に逆境体験をしていなくても子どもが逆境体験をしているケースがある。また小学生世帯、中学生世帯どちらとも、子どもの親が別居や離婚をしている場合、親は逆境体験がある場合が比較的多い。

縦軸：保護者の回答
横軸：その子どもの回答

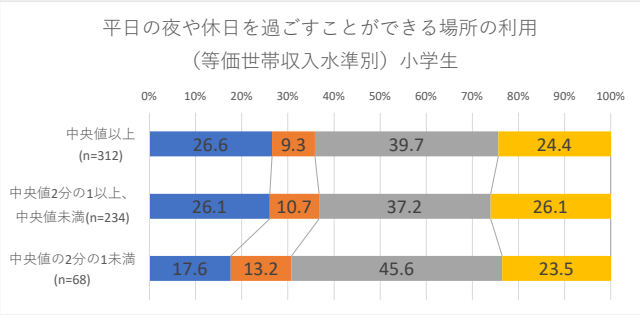
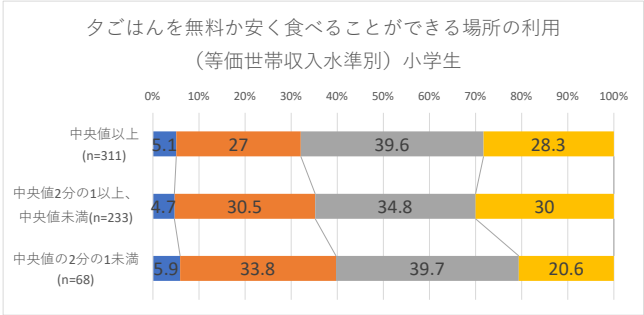
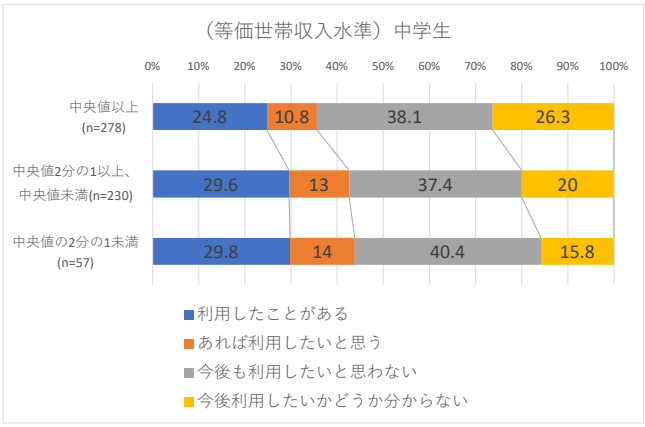
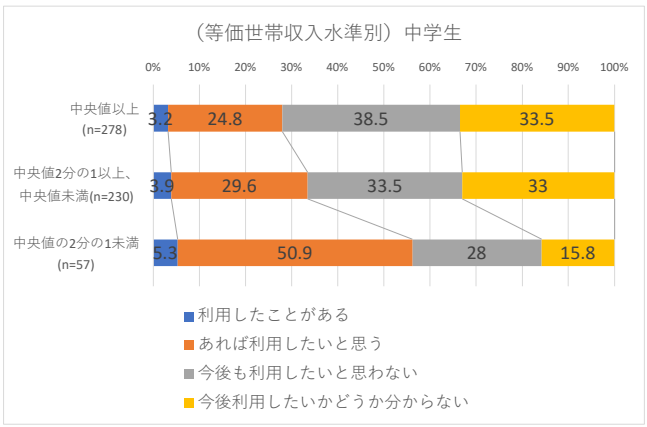
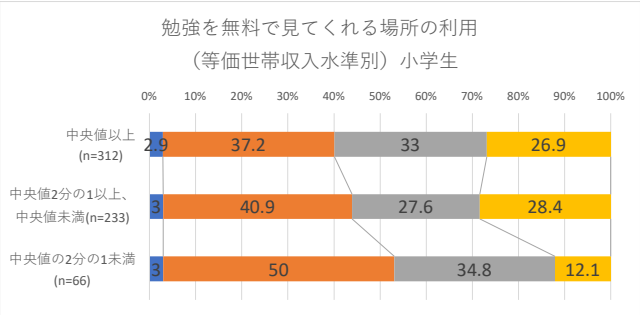
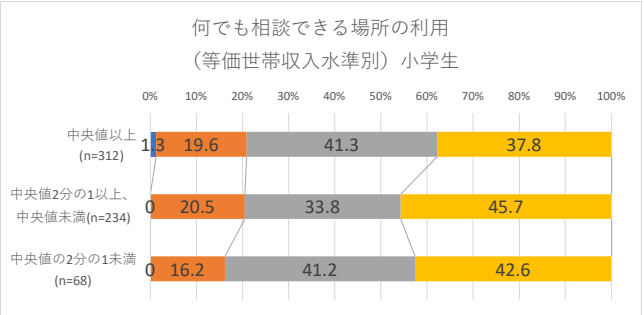
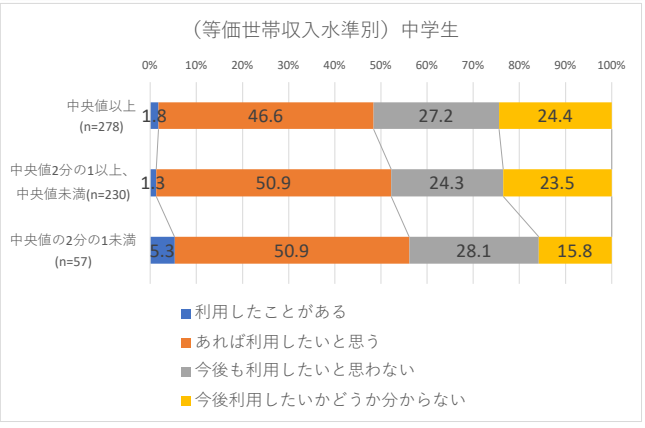
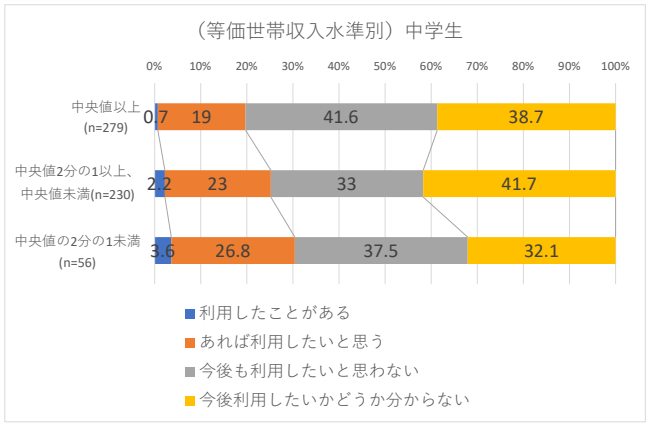
【小学生とその保護者】

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	合計
a	2	1	1	0	5	0	0	1	24	34
b	1	4	3	0	4	0	0	1	33	46
c	2	1	0	0	5	0	0	0	22	30
d	0	0	0	0	1	0	0	0	5	6
e	0	3	1	0	6	1	0	1	38	50
f	0	1	2	0	1	0	0	1	20	25
g	0	0	0	0	1	0	0	1	14	16
h	0	1	0	0	4	0	0	4	26	35
i	8	16	6	2	30	5	2	9	447	525
合計	13	27	13	2	57	6	2	18	629	767

【中学生とその保護者】

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	合計
a	3	5	6	1	6	2	3	3	32	61
b	4	7	6	1	6	4	3	5	30	66
c	1	2	2	0	4	0	0	0	24	33
d	1	0	0	0	0	0	0	0	7	8
e	3	3	1	0	8	1	1	1	36	54
f	3	2	4	0	6	1	1	2	16	35
g	1	0	1	0	2	0	0	1	5	10
h	4	1	2	1	6	0	0	3	19	36
i	15	17	9	2	31	5	2	4	395	480
合計	35	37	31	5	69	13	10	19	564	783

（2）支援の利用状況等

●支援制度の利用状況等

・夕ごはんを無料か安く食べられる場所や勉強を無料でみてくれる場所について、収入の水準が低い世帯において「あれば利用したいと思う」の割合が高い